



Shibasaburo Program

第16回柴三郎プログラムセミナー

免疫学(基礎医学)から病理学(臨床医学?)へ

— 教科書の何げない一文になることを目標に—

近畿大学 医学部病理学

講師

栞原 一彦 准教授



参加登録
不要

2025年

6月23日 月 17:00-18:30

医学教育図書棟3F 第二講義室

●プロフィール

- 2025年4月 - 現在
近畿大学 医学部 病理学 准教授
- 2022年4月 - 2025年3月
近畿大学 近畿大学病院病理診断科 講師
- 2021年4月 - 2022年3月
藤田医科大学 医学部 病理診断学 講師
- 2018年4月 - 2021年3月
藤田医科大学 医学部 病理診断学 助教
- 2016年8月 - 2018年3月
新潟大学 大学院医歯学総合研究科 分子細胞病理学分野 助教、講師
- 2016年2月 - 2016年7月
弘前大学 医学部 附属病院 病理部 医員
- 2014年4月 - 2016年1月
愛知県がんセンター研究所 腫瘍免疫学部 室長
- 1999年4月 - 2014年3月
熊本大学 大学院生命科学研究部 感染・免疫学講座免疫学分野
助手、講師、准教授
- 2001年12月 - 2005年3月
科学技術振興機構 さきがけ研究21「認識と形成」領域 兼任研究者
- 1996年1月 - 1998年12月
日本学術振興会 特別研究員(PD)
- 1994年4月 - 1995年12月
鳥取大学 医学部 生命科学科 免疫学講座 助手
- 1989年6月 - 1990年3月
佐賀医科大学 医学部 附属病院 外科学 研修医

Abstract

佐賀医科大学の6年生の時に、同級生が選択コースで免疫学を選び、当時助教だった阪口薫雄先生の指導を受けたことがきっかけで、阪口先生のお部屋でお話を聞かせていただきました。世界的な免疫学研究所であったバーゼル免疫学研究所から帰国されたばかりで、ご自身の研究について熱く語られました。全く理解できない内容でしたが、初めて研究って面白いのかも、と感じたことを今でも覚えています。大学卒業後、胸部外科の研修医になりましたが、ふと阪口先生から以前聞いた「良い医師の定義は難しいけど、最初の数年のトレーニングをきちんと受けないと取り返しがつかなくなるよ」との言葉を思い出し、大学院で免疫学を専攻しました。四年間で臨床に戻るつもりでしたが、阪口先生の指導を鳥取大学医学部、熊本大学医学部で2014年まで受けました。その間、色々な方々に研究指導を受け、また共同研究をしながら、自身の研究テーマがもはや免疫学ではなく、癌研究へシフトしていると感じ、2016年に病理専門医を目指すという大きな方向転換をしました。その理由は、マウスなどの齧歯類とヒトでは同じ癌でも大きな違いがあり、ヒトの癌研究には病理学を学ぶ必要があると感じたからです。紆余曲折を経て2020年に病理専門医になり、現在は近畿大学医学部病理学で、病理診断業務をしながら癌研究を続けています。私のこれまでの歩みは、順調という言葉からかけ離れていますが、こんな経歴の人もいるんだ、くらいに思っただけなら幸いです。

問い合わせ

柴三郎プログラム運営委員会事務局
iyg-igaku-3@jimu.kumamoto-u.ac.jp (内線5029)